

# 日本医学放射線技術史における

梅谷友吉小伝

## 新島襄とドイツ

守屋 正

今市 正義

新島襄（一八四三—一九〇〇）がドイツと関係のあったことは従来全く報告されていない。今般新島がドイツに滞在中に親交のあった友人からの手紙が一括発見され、その中に同志社医学学校に関する記事が書かれているので発表する。

新島襄は一八七〇年（明治三年）七月に渡米し、キリスト教の勉強をしていた。一八七二年三月に右大臣岩倉具視の使節団の通訳を命ぜられ、文部理事官田中不二麿のもとにつくことになった。田中は欧米の教育制度、教育施設を調査する任務を帯びていた。同年五月一日にニューヨーク出帆、同二日にリバプールに到着し、イギリス、フランス、ドイツ、スイス、オランダ、デンマーク、ロシアを一年三カ月かかって視察した。ドイツには一〇カ月余り滞在した。当時ドイツには日本の留学生約八〇名がいた。新島ははじめベルリンに滞在し、のちリウマチ療養のため、

（抄録未着）

ライン河畔の温泉の町ウィースバーデンに転居した。教会に通い、ドイツ語を勉強し、よき友人を多く得た。特にハインリッヒ・シュナイダーという青年とは親交を結んだ。

新島は婦米し、シュナイダーと文通した。一八七四年一月帰朝し、シュナイダーとの文通は多忙のため途切れた。一八七八年新島の日本での宣教のことが、ドイツの『カルウ・ミッショント通信』に載っているのをシュナイダーは発見し驚喜した。彼は「日本・京都・神学校・ミスター・ジョセフ・ニイシマ」とだけ宛名を書いて手紙を出し、幸運にも届いた。新島は一八七五年に同志社を結社した。

新島は一八八四年四月から一四カ月間同志社設立の資金募集のため欧米を再訪し、シュナイダーに再会した。同志社医学校設立の募金を彼にも依頼した。

シュナイダーの手紙は同志社に四通保管されている。第四信にはアメリカでの募金状況をたずね、立派なクリスチャンの教師を集める必要を忠告し、送金が東京か横浜へしかできないから同地の知人を紹介してくれと書かれている。

最近新島の遺品庫から、ドイツ国ウィースバーデンのミスター・シュナイダーおよび友人たちから五〇フランがアメリカ海外伝道協会に払い込まれた証明書が発見された。日付は一八八五年六月一六日となっている。第四信の日付は一八八六年五月二日なので、新島は一八八五年渡米しているの、その時受け取ったらしい。シュナイダーのその後の消息は不明であるが募金の努力はしていたらしい。金額は僅かであるが、シュナイダーの新島に対する友情は真剣であり、同志社医学校の設立を切望していたことを示している。

新島は一八九〇年（明治三年）一月二三日に四七歳で他界し、同志社看病婦学校は設立したが、同志社医学校はついに実現しなかった。

（京都市）